

夏ご坊さまの晩天講座

1日

「無常の風きたりぬれば」

金沢教区・常讀寺住職
ふじぼ としき
藤場 俊基 氏

8月 1日～5日
午前 6:30

2日

「いと厳ないしき奈威(地震)にて候
～安政飛騨大地震に学ぶ～」

飛騨地学研究会会長
しもはた いつお
下畑 五夫 氏

3日

真ほんとう実との出遇い
～親鸞聖人のあゆみに学ぶ～

大谷大学准教授
ふじもと まさふみ
藤元 雅文 氏

4日

「喪失と共に生きる」

一般社団法人リヴオン代表理事
おかく てるみ
尾角 光美 氏

5日

「今、生かされている命を考える
～みつめなおしてみませんか？
大切な家族のこと自分のこと～」

NPO 法人すえひろ代表
すえなが けんじ
末永 賢治 氏

追弔会

8月2日
午後 1:00



2024 年度

法話

大谷大学准教授

ふじもと まさふみ
藤元 雅文 氏

主催 飛騨学場・高山別院

飛驒学場 8月1日(木)～8月5日(月) 午前9:00～ 会場：高山別院 御坊会館

本講 1日～3日

講師 ^{ふじばとしき} 藤場俊基 氏 (金沢教区・常讚寺住職)

講題 「仏教と相応する聞^{もん}③～『浄土論』『浄土論註』が開く世界～」

次講 4日～5日

講師 ^{おかくてるみ} 尾角光美 氏 (一般社団法人リヴオン代表理事)

講題 「お寺だからできる死別の支え」

追弔会 8月2日(金) 午後1:00～ 法話：^{ふじもとまさふみ} 藤元雅文 氏 (大谷大学准教授)

「学び、続ける。～親鸞聖人から問われていること～」

ご坊さまの掲示板

飛驒における最初の文化講座 — 飛驒学場 —

江戸時代、文化文政のころ（今から約200年前）にはすでに僧侶を対象とした学問所があり、これが「飛驒学場」の起源であると言われていています。東本願寺の高倉学寮から講師の派遣を受けており、また地元講師による講義も行われていました。明治3年、当時の別院住職、霊寿院勝縁が「真宗学問所」を設立し、継続的な研修機関として再編入しました。これに大きな関心を寄せたのが高山県知事 宮原大輔で、広く大衆にも開放されるよう提言しています。

以来、法話をはじめ教養講座が開かれ、親しみの「ご坊さま」の名称も、「飛驒御坊」と敬意をもって呼ばれるようになりました。

講座は思想問題、農村問題、郷土史、衛生問題などで地元の名士も出講しており、大正期には同和問題なども取り入れられ、英語講座も開かれていました。戦時中でも飛驒学場は開かれていました。戦後は専ら僧侶対象の講習となっていき、他の文化講座は各教化部門が担当して行っています。昭和50年代に入り、それまでの2日間の暁天講座を5日間とし、講師として地元の方にも講座を担当していただいています。

飛驒学場は、飛驒地方における最初の文化講座であり、200年以上も市民の方々の参加を得て、今日も続いています。